

ナガイモ新品種‘ねばりっ娘’の栽培法の確立

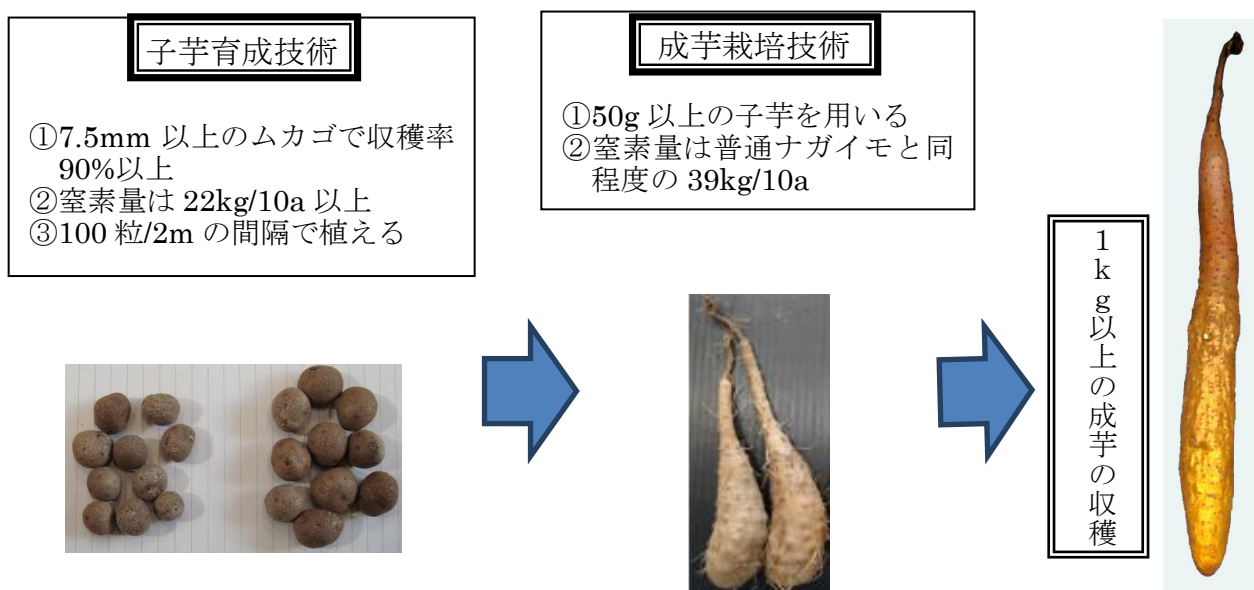
園芸試験場

1 背景と目的

園芸試験場育成のナガイモ新品種‘ねばりっ娘’は品種登録から10年をむかえた。切り芋を種とする普通ナガイモとは違い、‘ねばりっ娘’は切り芋では萌芽しにくいいため、ムカゴから子芋を養成し子芋から成芋を育てるという2年間の栽培期間を要する。そのため、普通ナガイモよりも手間と時間がかかること、また生産が不安定との農家から評価され、栽培当初栽培面積はあまり伸びなかった。

そこで砂丘地農業研究センターでは、普通ナガイモと同程度の1kg程度の‘ねばりっ娘’を安定して生産するため、ムカゴ採取、子芋養成、成芋栽培それぞれの栽培技術の確立を目指した試験研究を行った。

2 成果の概要



3 成果の活用

試験で得られた成果はすぐに生産部を通じて指導会、栽培指針に反映された。‘ねばりっ娘’は普通ナガイモよりも高単価であること、普通ナガイモと同等以上の収量が得られることによって、栽培面積が急速に増加した。

4 残された課題

種芋養成期間の短縮を図るため、成芋の頂芽を利用した栽培技術を確認する。また‘ねばりっ娘’と普通ナガイモの生育の違いを活かした‘ねばりっ娘’専用の施肥体系を確認する。

‘ねばりっ娘’は栽培面積の増加と並行して、ネコブセンチュウの被害が多くなってきている。ネコブセンチュウ被害を低減するために種芋の温湯処理や土壌消毒による防除法を確認する。

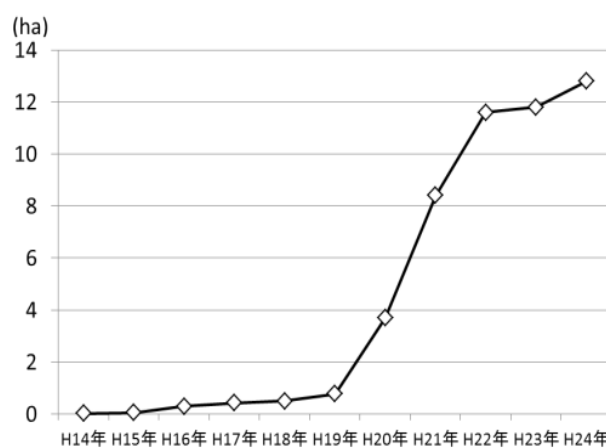


表1: ‘ねばりっ娘’の栽培面積の推移